商学部
The Faculty of Commercial Sciences

産 Industry　教 Education　街 Promotion of our community

研究トピックス

都市における人口、商業、公共交通の研究

専門分野

都市地理学　経済地理学

川瀬　正樹　KAWASE Masaki

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymdygygsggy

研究概要

大都市郊外住民の通勤の男女差、住宅地の高齢化や交通問題、地方都市の商店街の現状と課題等について研究してきた。地理情報システム(GIS) を活用して人口や商業などを分析しているほか、広島平和学習への GIS の活用例を国内外の学会等で発表してきた。また、研究のため 1 年間、スウェーデンに派遣され、移民や環境に配慮した、北欧の持続可能なまちづくりの実践例を観察してきた。

研究シーズの応用

これまで、市史や町史の人口、都市、交通、商工業等の現代部分を執筆したほか、住宅団地を調査し、学生と住民とともに課題に取り組んだ実績がある。また、過去の空中写真（航空写真）と地図に関する講演や、地理情報システム（GIS）による商業分析の公開シンポジウムでの報告、GIS による初歩的な人口分析手法の地方自治体向けセミナーでの報告を行ってきた。さらには、GIS を平和教育に活用する学会イベントに、毎夏、主催者の代表者として参加している。まちづくりや都市・人口問題のほか、地図や GIS の分野でも地域社会に寄与できると考えている。

キーワード

都市　GIS　北欧

人文学部
The Faculty of Humanities and Human Sciences

産 Industry　街 Promotion of our community　福 Welfare　教 Education

研究トピックス

現代日本における性的マイノリティ／LGBT に対する社会意識に関する研究、クィアをめぐる表象文化に関する社会学的研究

専門分野

ジェンダー／セクシュアリティ研究、LGBTQ+研究、クィア研究、社会学

河口　和也　KAWAGUCHI　Kazuya

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymisgoyyggy

研究概要

近年、日本社会においても性の多様性や性的マイノリティに関する注目がなされるようになってきました。そうしたなかで、これまでは日本社会における性的マイノリティ／LGBTQ+に対する社会意識の研究を行ってきました。科研研究の研究チームの研究代表者として 2015 年、2019 年に全国を対象に社会意識を把握する大規模調査を行い、基礎的なデータを作成しました。これらの研究成果は、行政・教育・報道等で活用されています。

個人としては、社会学／クィア研究という領域のなかで、メディアにおいて性的マイノリティがどのように表象されてきたか／表象されているかの研究を行ってきました。とくに、テレビ／映画を中心に、そこに表れるセクシュアリティの表象や性的マイノリティの表象を考察する研究を行っています。また、近年は大都市ではない地域、いわゆる地方都市に生活する性的マイノリティの生活実態や直面する諸問題についての研究も行っています。

研究シーズの応用

2023 年 6 月に成立した LGBT 理解増進法では、行政・企業・学校等に対して性的マイノリティに対する様々な配慮・支援や相談対応等を推進していくことが明記されています。また、実際に、社会においてもダイバーシティの観点から、様々な領域で施策を実施することが要請されるようになってきました。

性的マイノリティに対する意識調査や生活実態の調査に関する成果を基盤にして、行政や企業・学校等における LGBTQ+に対応するための様々な調査企画や実際の対応・支援の方法についてのアドバイス提供で協力することは可能です。これまでにも企業や教育現場、行政に対する研修等では協力関係を構築してきました。

キーワード

LGBTQ+、人権、ダイバーシティ／エクィティ／インクルージョン

人文学部
The Faculty of Humanities and Human Sciences

教 Education

研究トピックス

数学的な考え方の育成を基盤にした授業構成

専門分野

数学教育学　算数科教育　小学校教育

木村　恵子　KIMURA Keiko

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymkigygkggy

研究概要

１．生活算術運動期の算数科カリキュラム研究を行っている。生活算術運動における理論と実践の統合について緑表紙教科書を通して分析している。

２．日本の算数科教師に潜在している日本型授業の特質を，ナラティブを用いて分析している。本研究で用いたナラティブ的アプローチは，教師自身が意識していない授業づくりについての知恵やスキルを顕在化させるとともに，異世代間教師の協働性を促進する知恵やスキルの伝承に有効であることが示唆された。

研究シーズの応用

１．小学校の教育実践の様々な活動における理念や実践の統合の促進。

２．集団での世代間のスキルや知恵の伝承のしかけづくり。

キーワード

教科教育　授業づくり　数学的な見方・考え方

人文学部
The Faculty of Humanities and Human Sciences

教
Education

研究トピックス

美術教育の内容や方法

専門分野

美術教育分野

沼本　秀昭　NUMAMOTO　Hideaki

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymdsygogggy

研究概要

人間はなぜ絵画などの表現活動を行うのか、その根本的な意味を追求する作家論から、学校教育として美術教育の指導や内容に触れる具体的なものまで幅広く美術教育について研究しています。すべての研究は「表現活動は人間の本能的行為である」との理念に立っています。具体的な内容は、作家論（主題とその表現の特徴について)、絵本作家とその特徴、絵画の指導法、絵画・彫刻などの作品鑑賞、発達段階を踏まえた教材内容とその指導方法、などです。

研究シーズの応用

学校教育としての美術教育だけではなく、乳幼児における造形教育や生涯学習としての美術教育などにも対応出来ます。また実際の実技制作(絵画・デッサンなど平面分野のみ)の活動も可能です。

キーワード

表現、乳幼児の造形活動、生涯学習

人文学部
The Faculty of Humanities and Human Sciences

教 Education　環 Environment　栄 Nutrition

研究トピックス

環境と科学に興味のある人材を育成する

専門分野

微生物学　理科教育学

松崎　雅広　MATSUZAKI Masahiro

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymidygydggy

研究概要

・小学校理科の教育実践、社会人向け講座の開講
・生活に関連する科学の知識の理解

研究シーズの応用

藍染教室や南極観測隊としての講演も可能。

キーワード

生活の中の科学　野菜栽培技術　食育（調理師免許取得）

人文学部
The Faculty of Humanities and Human Sciences

教 Education　街 Promotion of our community　他 Other

研究トピックス

ひとづくりとまちづくりの好循環を創る学びのデザインとその社会的成果

専門分野

生涯学習論　社会教育学

山川 肖美　YAMAKAWA Ayumi

教員情報 https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymibgbgyggy

研究概要

1960 年代半ばにユネスコで生涯教育の考え方が提唱され、日本はそれをいち早く取り入れ、学校教育、社会教育、家庭教育の領域で様々な改革が実施されてきた。この改革の拡がりは、少子高齢化を伴う人口減少を背景に、教育領域にとどまらず、社会全体に広がりつつある。生涯学習担当部局の教育委員会から首長部局への移管化や 2018 年の中教審「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」における多様な人・セクター間の協働に関する記述等がその証左である。こうした中で、学びよりも地域づくりやまちづくりを偏重する動きもみられ、地域づくりやまちづくり起点の学びへの重点化が進み、結果として、地域課題解決や地域づくり・まちづくりに一見してつながらない学びの価値への軽視が一面でみられるようになった。

こうした現況と方向性に対して、ひとづくりとまちづくりの好循環を生む学びの仕掛けを創ることで、多様な学びに対する再価値化を図ることを目的に研究を進めている。まちの社会インフラとしての多様な学びの場や機能に着目し、先行する国内の市町やデンマーク・オーフスやアメリカ・ポートランド、ユネスコの学習都市（learning cities）等の思想と実装に学びつつ、その意義を整理するとともに、社会教育における個人起点の多様な学びを地域づくりやまちづくりの実践へつなぐための学びのデザインとそれが在ることによる社会的成果を明らかにすることに取り組んでいる。なお、ここでいう学びの社会的成果とは、学びによって「個人と社会にもたらされるすべての利益」（OECD Synthesis report2007）を意味するが、とりわけ、暮らしの質の向上とシビック・エンゲージメント（civic engagement）に焦点をあてている。

研究シーズの応用

世界に先駆けて少子高齢化を迎えた社会課題先進国・日本では、”新しい公共”の考え方のもとで世代や

立場を越えた人と人・知恵と知恵とのつながりにおいて、多様かつ未知の社会課題に向き合うことが地域や社会の持続には欠かせない。学習組織としての企業組織のあり方が提唱されたり、ワークショップと行政計画の策定を繋ぐコミュニティデザインを生業とする仕事が生まれたりなど、学習や教育が、学校を始めとする公的組織・機関にとどまらず、多様なセクターや場において創出され始めていることはその証左の一つであろう。

このように社会全体に必要とされ、拡がりをみせつつある学びの実践に対して、私の研究は、生涯学習論や社会教育学の視座から理論的根拠や実践のフレームを提示することができる。1990 年代にヨーロッパ諸国から始まり、2015 年にはユネスコが主導する学習都市ネットワークの促進により世界 600 都市に拡がった学習都市の思想と実践は、学びを社会インフラに据えることで社会的包摂とイノベーション創出を兼備する持続可能な都市を目指すものである。地域にある学習装置（学習機会や学習コミュニティ等学びへの出入り口となる場）を通じて多様なセクター、多様な世代、多様な立場の人たちがつながることで、人と人、人とまちが出会い・学びあい、その社会的成果として個人の暮らしの質が高まり、社会関係資本や経済活動・文化活動・地域活動等が生まれ、持続可能な地域社会を構築する。

こうした考え方により社会変革を志向する人や組織・機関とともに共同研究や研究成果に基づく諸計画の立案・実装の協働活動ができれば幸いである。（ご関心の方は、研究課題「オープンガバナンスによるまちづくりと生涯学習」（2018 年度ひろみら特別研究）、研究課題「学びから生まれるシビックエンゲージメントによる持続可能なまちの構築」（2019-2021 年度科研基盤 C 課題番号 19K02489）の研究成果をご一読ください。）

キーワード

学びのデザイン　持続可能な地域社会　シビック・エンゲージメント

人間環境学部
The Faculty of Human Environmental Studies

産 Industry　教 Education　環 Environment

研究トピックス

生命の起源研究と熱水を利用する環境技術開発

専門分野

化学　生命科学　環境科学

川村　邦男　KAWAMURA Kunio

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymiygyyiggy

研究概要

生命の起源を研究しています。このために世界に例のない熱水フローリアクターを開発しました。この手法は基礎研究だけでなく、環境改善技術シーズとして、応用展開が期待されています。私達の開発した熱水フローリアクターは、最高温度 400℃、圧力 1000 気圧で、0.002～200 秒までの短時間の反応を追跡できます。また、分光システムと結合して、様々な物質の反応過程を紫外・可視・近赤外領域で in situ 観測できます。また、鉱物や固体触媒を用いる反応にも適用できる装置も開発しました。すでに、固体触媒の開発ツールとして、また、繊維製品の熱水処理技術をこれらをベースに開発し、実用化をめざしています。

研究シーズの応用

固体触媒は化学プロセスの効率を改善する魔法の薬として、開発が進められてきました。しかし、これらの作用をその場観測することは難しかったです。私達の手法を用いれば、固体触媒の開発効率を劇的にアップできると期待されています。また、中規模サイズの熱水フローリアクターを用いて木綿廃棄物からフルフラールなどの有用成分を連続的に生成するシステムも開発しました。これらの実用化をめざすとともに、その他の展開も共同研究によって期待されます。

キーワード

環境技術　化学プロセス　自然科学のアウトリーチ

健康科学部
The Faculty of Health Sciences

教 Education　福 Welfare　他 Other

研究トピックス

現代の倫理的課題、現代社会の倫理教育の在り方の探究

専門分野

哲学、倫理学、倫理教育論

嶋﨑　太一　SHIMAZAKI Taichi

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymbdgdyiggy

研究概要

哲学･倫理学を専門とし､特にニュートンとカントの自然哲学の文献学的研究を主として行ってきました。同時に生命倫理や科学技術倫理など現代倫理学についても調査・検討しています。特に、今日の AI 技術やロボット技術の倫理的課題に関心を持っています。
また、高等学校教員、高等専門学校教員の経験を踏まえ、学校教育の倫理的課題についても追究しているほか、公民科「倫理」教育の方法や専門職倫理教育の在り方についても検討を続けています。

研究シーズの応用

哲学・倫理学の研究者ですが、高等学校の教材や大学の教育学のテキストの分担執筆も経験し、学校教育の課題などについても関心をもっています。
さしあたり以下のような点を対応可能領域としています。
1 生命倫理・医療倫理、AI の倫理などについての相談
2 教育の倫理、倫理の教育についての相談
3 哲学に関連する文献や資料の調査

キーワード

現代社会の倫理、教育倫理、倫理教育

国際コミュニティ学部
The Faculty of Global and Community Studies

教 Education　他 Other

研究トピックス

中国の政治外交研究、日中・米中関係を中心とした東アジア国際政治、中国文明の特質と日中文明の比較研究

専門分野

国際政治　中国政治外交　日中関係　文明論研究

王　偉彬　WANG　Weibin

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymkdgkgbggy

研究概要

1. 中国政治外交研究
2. 日中・米中関係を中心とした東アジアの国際政治に関する研究
3. 中国文明の特質と日中文明の比較研究

著書（単著）:「中国と日本の外交 ― 一九五〇年代を中心にみた国交正常化へのプロセス―」（ミネルヴァ書房、２００４年)、

著書（共著）:中園和仁編『中国がつくる国際秩序』（ミネルヴァ書房、2013 年)。

研究シーズの応用

中国進出に際しての政治・経済事情等を含む異文化問題

キーワード

中国の社会環境　企業文化　社会風習

国際コミュニティ学部
The Faculty of Global and Community Studies

教 Education　街 Promotion of our community　他 Other

研究トピックス

ボトムアップなまちづくり・市民参画

専門分野

都市デザイン分野

木原　一郎　KIHARA　Ichiro

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymdmgigbggy

研究概要

まちづくり、建築・公共空間の使い方の検討、建築設計の際に、一般市民がスムーズに参画できるような場・ワークショップ・アクションプランの計画などを行っています。特に市民参画が形骸化せず、今後自分ごととしての行動ができるようなプロセスや場について研究しています。広島市都心部での将来ビジョンを計画・実装していく取り組みを行っている#カミハチキテル- Heart of Hiroshima -にて実践的に研究しています。

またエリアマネジメントにおける協創のあり方を研究しています。協創が必要なことはみなさん理解されているところと思いますが、実現させるにはとても多くの壁があります。それを乗り越えるプロセスやアクションを実践的に研究しています。

研究シーズの応用

まちづくりへの一般市民の参画、建築設計や空間活用における地域住民の意見収集、地域の今度のまちづくりの方向性検討、これらの検討プロセスや場の設えなどにお困りでしたらお力添えできます。またエリアマネジメントの進め方もご相談ください。

キーワード

市民参画　ワークショップ　エリアマネジメント

研究トピックス

言語コミュニケーション

専門分野

言語学

竹井　光子　TAKEI Mitsuko
教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymkmgkgoggy

研究概要

専門は、コンピュータに人間の言葉を理解し処理させることを目的とする「計算言語学（Computational Linguistics)」。言語学と情報科学が融合した分野です。省略が多いといわれる日本語の言語処理を出発点として、日本語の独話・対話・会話にみられる特徴や傾向に焦点を当てた研究を続けています。最近は、多文化共生社会における「共通語としての日本語」によるコミュニケーションや、情報通信技術を活用して空間を越える「バーチャル交流」における異文化コミュニケーションの場面に注目しています。これらの場面での日本語インターアクションの特徴やその背景にある意識を探ることを研究のねらいとしています。

研究シーズの応用

多文化共生が進展する現代社会、機械翻訳の発展が言語の壁をなくしつつある AI 社会における日本語の位置づけやコミュニケーションについて考えます。まずは、われわれの第一言語である日本語について、そのコミュニケーションの特徴や文化的背景を客観的に把握することで、より効果的な「多文化共生社会における異文化間コミュニケーション」や「ICT、AI 社会における言語コミュニケーション」へとつなげることをねらいとします。異なる人と人、人と機械が互いを認め合いつつ、共存していく社会を目指します。

キーワード

言語　文化　コミュニケーション　ICT・AI

国際コミュニティ学部
The Faculty of Global and Community Studies

産 Industry　教 Education　観 Tourism　環 Environment　街 Promotion of our community

研究トピックス

各個人の幸福感を高められる、市民参画による持続可能なまちづくり

専門分野

都市計画　都市戦略　環境システム

三浦　浩之　MIURA Hiroyuki

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymiggsgsggy

研究概要

地方版総合戦略、長期総合計画、都市計画マスタープラン、立地適正化計画、景観計画、環境基本計画、循環型社会形成推進地域計画、廃棄物減量等推進計画、住生活基本計画、社会資本総合整備計画、下水道整備計画等の策定に関連する研究に取り組むとともに、各自治体において、これらの策定にも関与しています。とくに、EBPM Evidence Based Policy Making）と市民関与による政策・計画の立案、オープンガバナンス、そして、これらに寄与するオープンデータに着目しています。

研究シーズの応用

政策・計画の立案における EBPM アプローチと、立案における市民関与の手法およびオープンガバナンス、そしてこれらに寄与するオープンデータについて、応用できるシーズを有しています。

キーワード

EBPM　市民関与　オープンガバナンス　オープンデータ　協働

国際コミュニティ学部
The Faculty of Global and Community Studies

教 Education　観 Tourism　他 Other

研究トピックス

世界の中の日本について、日本政治、日本外交、国際政治の枠組みから考察している。

専門分野

国際政治学　国際日本学

三上　貴教　MIKAMI　Takanori

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymkmgsosggy

研究概要

最新の研究において「十年一昔アプローチ」を提唱している。10 年前の施策を現在から照射することで、その成否、残された課題、今日への影響について考察する。また 10 年後のあるべき姿から現在の施策を検討し、その意味、有効性を議論する。首相による施政方針演説を主なテキストとしている。

加えて国際政治学理論におけるソフトパワーを考える研究、国際社会に横溢するランキングを素材とした研究も行っている。ランキングについては、これを無批判に受容するのではなく、その背後にある意図、問題意識、作成手法にも注意を向ける、言わばランキング・リテラシーの向上に結びつける必要性について主張している。

研究シーズの応用

「十年一昔アプローチ」は、本研究者が専門とする政治学に関連する分野を超えて、現在の社会状況を分析する上で、広範な領域における応用が可能である。10 年前の中国やアメリカが国連で主張していたことの内、何が実を結び、何が単なる掛け声だけに終わってしまったのか。国際社会の環境の変化を変数として認識しつつ、客観的、表面的に捉えられるデータを掌握すると共に、価値観やアイデンティティなど、文化的な要素も加味して論究する。世界の中の広島を考える上でも有用な手法であると確信している。

キーワード

世界の中の日本　日本の中の世界　ソフトパワー

国際コミュニティ学部
The Faculty of Global and Community Studies

教 Education　観 Tourism　他 Other

研究トピックス

チェコから見たヨーロッパ理解

専門分野

国際政治史　中欧地域研究　チェコ研究

矢田部　順二　YATABE　Junji

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymiygioiggy

研究概要

これまで国際政治史研究の立場から、チェコ現代史、チェコスロヴァキア対外関係を研究してきました。チェコ共和国と周辺諸国の相互関係の歴史分析が専門領域です。チェコ教育省の政府給費留学生として2年半、さらに在チェコ日本大使館の専門調査員として2年、現地に滞在した経験から現地語であるチェコ語を使った研究をしています。地域を理解するには総合的アプローチが必要との考えから、政治研究のみならず文化理解の造詣も深めるように努めています。

研究シーズの応用

かつては「鉄のカーテン」の向こう側だったチェコスロヴァキア。現在はチェコ共和国となり、EU加盟国です。日本ではまだあまりよく知られていない国かも知れませんが、原爆ドームの設計者がチェコ人建築家のヤン・レツルであったことなど、広島ともつながりのある国です。地域研究の立場から情勢説明や、地域理解の支援、あるいはチェコ語学習の教授などができます。また、中欧地域の政治文化についても解説することができるでしょう。

キーワード

ヨーロッパ理解　地域研究　チェコ語